

令和3年度 国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座 「サイエンスコミュニケーション1(SC1)」 講義一覧・スケジュール

●令和3年度の「国立科学博物館サイエンスコミュニケーター養成実践講座」は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、全てオンライン形式にて実施いたします。

●講座は、主に講義と課題研究から構成されています。

講義	サイエンスコミュニケーションに関する理論を学ぶ講義です。担当講師は各分野の第一線や現場で活躍されている方々です。オンデマンド型授業と同時双方向型授業から構成されています。一部同時双方向型授業のみの講義もあります。(それぞれの事前・事後課題も含めて、深く学びます。) オンデマンド型授業は同時双方向型授業実施日の1週間前前から配信予定です。
課題研究	一般の方に向け、自分自身の研究についてオンラインで発表をするための授業です。担当講師は当館研究者・職員です。課題研究では、発表日(8月9日)に向けて自身の研究・専門分野についての「ディスカバリートーク」を準備するとともに、内容等について、講師や他の受講者との議論を通じて改善していきます。ディスカバリートーク…土・日・祝日に当館の研究者が交代で、展示物についての話や研究者自身の研究内容などについて、来館者に直接解説するイベントです。(https://www.kahaku.go.jp/learning/event/d_talk/index.html)

赤枠6月12日・8月9日は、必ず参加していただく日となっております。

同時双方向授業 実施日程	講義名	氏名	所属	概要
6月10日(木) 15:30~17:00	オリエンテーション	当館職員	国立科学博物館	本講座を受講するに当たって、授業方法や評価などについての説明を行います。
6月10日(木) 17:00~18:00	サイエンスコミュニケーション という考え方、背景及び目的 ※1	渡辺 政隆	日本サイエンスコミュニケーション協会 会長 同志社大学 特別客員教授	サイエンスコミュニケーションとは何か、何を指すのかを、時代背景を振り返りながら論じます。
7月21日(水) 17:00~18:30	サイエンス・ライティングII ※1 ※2			実践的サイエンス・ライティングのみならず、そもそもサイエンス・ライティングとは何かも含めて議論します。
6月18日(金) 17:00~18:00	博物館の機能と サイエンスコミュニケーション ※1	小川 義和	国立科学博物館 調整役	展示や学習支援活動等、博物館の資源を活用したサイエンスコミュニケーションについて学びます。
6月25日(金) 17:00~18:00	地域コミュニティにおける 科学館の活動	代島 慶一	静岡科学館 企画担当長・主査	科学館における事例を紹介しながら、地域でできる科学コミュニケーション活動について考えます。
7月2日(金) 17:00~18:00	サイエンスコミュニケーションの考 え方をどのように生かすか ※1	池谷 知夏	大日本図書株式会社 編集局 編集一部 小学校算数科 小学校算数科担当	当館でサイエンスコミュニケーションを学んだ後、仕事の中で、講座で学んだことをどのように生かしているかを紹介し、また、本講座で実施する課題研究についても助言します。
7月6日(火) 17:00~18:30	文化としての科学技術	岡本 拓司	東京大学大学院 総合文化研究科 教授	知識としての科学の特徴、その技術との関わり、科学が形成されてきた歴史的な過程などについて、参加していただく方々のご経験やご意見を伺いながら議論します。
7月10日(土) 13:30~14:30	メディアに見る サイエンスコミュニケーション の実際:出版編	熊谷 現	丸善出版株式会社 企画・編集部 第三グループ長	書籍の実例を紹介しながら、書籍というメディアの特徴や対象を意識したサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
7月10日(土) 15:30~16:30	メディアに見る サイエンスコミュニケーション の実際:新聞編 ※1	大木 理恵子	朝日新聞社 熊本総局 記者	新聞の科学記事等の実例を紹介しながら、科学報道の意義や新聞というメディアにおけるサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
7月16日(金) 17:00~18:00	対面式 サイエンスコミュニケーション の実際	島崎 直也	Sakumo 佐久市子ども 未来館 館長 こどもヘンテコまほうラボ 所長	体験的なコミュニケーションの事例を紹介し、対面式だからこその興味関心のない層へのアプローチの可能性をグループワークを交えて探ります。
7月19日(月) 17:00~18:00	調査・研究活動と展示 ※1	加瀬 友喜	神奈川大学 理学部 特任教授	自然科学系博物館の成立の歴史を概観し、国立科学博物館の地学分野を例にして、調査・研究活動と展示の関わりについて紹介します。
7月26日(月) 17:00~18:00	研究機関における サイエンスコミュニケーション の実際	相馬 央令子	宇宙航空研究開発機構 (JAXA) 研究開発員	研究・開発の場面で実例を紹介しながら、研究機関の研究者に求められる機関内外とのサイエンスコミュニケーションについて理解を深めます。
7月27日(火) 17:00~18:30	これからの学校教育で 求められる学び	清原 洋一	秀明大学 学校教師学部 教授 秀明大学教育研究所 顧問	初等中等教育段階における理科教育の現状や、学習指導要領の改訂(育成すべき資質・能力、カリキュラムマネジメント、主体的・対話的で深い学び)など、初等中等教育段階における教育改革について理科教育の視点から考えます。
6月12日(土) 13:30~17:00	課題研究(計16コマ) ※3	当館研究者・ 職員	国立科学博物館	「課題研究」では、一般の方を対象に、受講者が「ディスカバリートーク」を行うことを最終目標としています。当館研究者による事例を参考にしながら、自らの専門分野についての「ディスカバリートーク」を準備します。多様な専門分野の受講者同士がグループトークを交えて議論しながら「ディスカバリートーク」を作り上げます。
6月28日(月) 13:30~17:00				
7月13日(火) 13:30~17:00				
7月29日(木) 10:00~17:00				
8月5日(木) 13:30~15:00				
8月9日(月) 10:00~17:00				
8月23日(月) 13:30~17:00				

状況により、授業の実施日程等の変更や、講義の中止等の可能性があります。

※1 令和2年度「科博オンライン・セミナー～サイエンスコミュニケーション編～」(令和2年9月～11月実施)の修了者は、申請によりすでに受講済みの授業とみなすことができます。

※2 「サイエンス・ライティングI」(※1)は、オンデマンド型授業90分となります。

※3 各日程に記載されている時間は、開始と終了の予定時間であり、適宜休憩時間が設定されています。